

家族ふれあい広場 ネイパルで雪あそび

1 事業のねらい

冬の自然体験活動を通じて、幼児の体力増進を図るとともに、親子でのコミュニケーションを促し、家庭教育の充実に資する。

2 事業の概要

- 期日 R3.2.20(土)～21(日) 1泊2日
- 対象 3歳以上の幼児とその家族
- 人数 8家族 25名
- 場所 ネイパル森
- 協力 斉藤優香氏（森町若妻サークル連絡協議会会長）

3 プログラム

	9:00	12:00	13:00	14:00	16:00	17:30	19:00	20:00	21:00	
2/20 (土)			開 会 式	活動① 仲良く なろう	活動② 冬の野外を 楽しもう	活動③ 雪で 作ろう	夕 食	活動④ 星座の 世界を 楽しもう	入 浴	就 寝
2/21 (日)	起 床	朝食 清掃	活動⑤ 【親】クロストーク 【子ども】工作にチャ レンジ	閉 会 式						

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 日常では体験できない親子での冬の自然散策
 - ・スノーシューを履いて冬の森を歩いたり、火を起こして暖を取ったりしながら、親子での会話が弾むようにした。
 - ・体育館の床にLEDライトを並べ、冬の夜空を表現する活動の中で、星座観察のポイントを知らせて、帰宅後の親子での活動を促した。
- 保護者の交流と学びの促進
 - ・保護者を対象とした子育てに関する交流会を開催した。座談会形式で話しやすい雰囲気を作るとともに、助言者やコーディネーターを置き、参加者全員が会話に参加できるようにした。

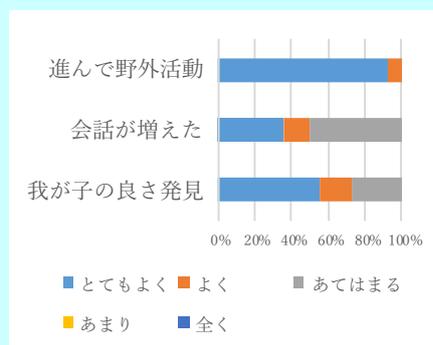


冬の森の散策



星座を表現したLEDライト

5 事業の評価



- アンケートから
 - ・ほとんどの参加者が進んで野外活動に参加した。
 - ・親子の会話の量は、普段と変わらなかった。
- 参加者の声
 - ・お友達みんなで遊べて楽しかった。(子)
 - ・親同士の交流は、とても勉強になりました。子供たちも喜んでくれて嬉しく思いました。(親)

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケート結果から、冬の森の散策などに進んで参加し、活発に活動していたことから、体力の増進につながったと考えられる。
- 「親子の会話が増えた」割合が低く、普段と変わらないコミュニケーションにとどまってしまったことから、感動を分かち合う場を意図的に設けるなどして、会話が深まるように工夫することが必要である。



企画のポイント

親子で体験し感動を分かち合う場と親が子の成長を見つめなおす場の設定

家族ふれあい広場

1 事業のねらい

伝統行事や遊びを通して幼児の経験の拡大を図るとともに、親子が一緒に活動することで、家族の絆を深める機会とする。また、保護者に子どもの現状等について情報提供を行い、家庭教育の学習の機会とする。

2 事業の概要

- 期日 R3.1.16(土)~17(日) 1泊2日
- 対象 幼児(年長)とその保護者
- 人数 5組 13名
- 場所 ネイパル北見
- 協力 寺崎 真一郎氏(こどものこころの相談室がじゅまる代表)

3 プログラム

日時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1/16(土)				10:00~ 受付	開 会 式	伝 統 遊 び I	昼 食	休 憩	伝 統 遊 び II	【子ども】 雪遊び 【保護者】 情報提供	凧作り	休 憩	夕 食	休 憩	入浴 自由		就 寝
1/17(日)	起床・洗面	朝食	清 掃 点 検	準 備	凧揚げ&もちつき 体験	閉 会 式	12:00 解散										

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 異文化に触れることで日本の伝統のよさを再確認
 - ・ALTのボランティアを確保し、参加者に対して外国の文化や遊びの違いを伝えながら活動してもらうことにより、参加者が外国と日本の違いに気づき、日本の文化のよさや遊びの楽しさを再確認できるようにした。
- 家族間及び保護者間の交流機会の確保
 - ・参加者全員でカルタや福笑い、もちつきなどに取り組んだほか、ゆとりあるプログラムを設定し、家族間の交流を促した。
 - ・保護者が「あそびを通じた子育て」について学習する機会を提供し、講師への質問や感想交流を通して、保護者間の交流も促した。



日本文化の良さを体験



「遊び」について保護者が学ぶ

5 事業の評価

- 参加者の声
 - ・餅つき・凧揚げ・独楽回しが楽しかった。(子ども)
 - ・家庭では普段経験できないことを体験することができ、充実した時間を過ごすことができた。(保護者)
 - ・コロナ禍の状況で、子どもたちと思いっきり身体を動かす機会がもてて良かった。(保護者)
 - ・遊びを通していつも以上にゆったりと親子の触れ合いができて良かった。(保護者)
 - ・普段から悩んでいたことに対し、講師の方から参考となる話が聞けたので良かった。(保護者)

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「親子の交流ができた」との声が多かったことから、時間にゆとりのあるプログラム配分としたことで、より活動を楽しみ、家族の絆ができたものと考えられる。
- 保護者プログラムにおける講師の話は好評であったが、保護者同士がグループでテーマに沿った情報交流をするなどの工夫をすることによって、日常の子育ての自信につながるよう仕向ける必要がある。



企画のポイント

「遊び」を軸とした体験機会と学習機会を通して、家族間、保護者間の交流の場を確保。